

6. 本カリキュラムの全体像および確認ポイントのまとめ

本カリキュラムの全体像および確認ポイントをまとめています。チェックシート形式にしていますので、受講者に配布いただき、各科目修了時の理解度の確認や、修了評価前の復習に活用ください。また、受講後に現場で再度学びたいことなどをメモ欄に記載して、各福祉用具貸与事業所での OJT を通じた振り返りなどに活用ください。

	科目名	確認ポイント(理解できたら✓)	メモ
制度等について学ぶ	1. 福祉用具と福祉用具専門相談員の役割		
	1.1 福祉用具の役割	☐ 超高齢社会において、住環境整備、中でも福祉用具の役割は極めて重要であることを(将来的な視点も含めて)理解できている。 ☐ 福祉用具は高齢者のみが使うものではないこと(障害者も対象であること)を理解できている。 ☐ 高齢者や障害者の生活を支える福祉用具には、介護保険制度及び障害者総合支援法の対象となっていないものも多くあることを理解できている。 ☐ 自立支援(自分でできなかったことを自分でできること)の重要性を理解できている。 ☐ 福祉用具は道具であり、リスクが隣り合わせであること(リスクを軽減するためには福祉用具専門相談員の役割が重要なこと)を理解できている。	
	1.2 福祉用具専門相談員の役割と職業倫理	☐ 福祉用具専門相談員の業務内容を、運営基準の福祉用具貸与・特定福祉用具販売の具体的取り扱い基準を中心に列挙できる。 ☐ 福祉用具専門相談員としての職業倫理について、法令順守、守秘義務、説明責任、利用者本位など、一つ一つの内容と実際の介護現場で留意すべき点を列挙できる。	
	2. 介護保険制度等に関する基礎知識		
	2.1 介護保険制度等の考え方と仕組み	☐ 介護保険制度の理念、認定の流れやサービスの種類・内容を説明できる。 ☐ 介護保険制度以外の高齢者・障害者関連施策を知っている。 ☐ 地域包括ケアシステムについて理念・構成要素を説明できる。 ☐ 地域ケア会議の機能を理解できている。 ☐ 地域包括ケアを担う各専門職の役割・責務を理解できている。	

	科目名	確認ポイント(理解できたら✓)	メモ
	2.2 介護サービスにおける視点	☐ 人権や尊厳を保持した関わりの重要性については、どのような点に配慮すべきかについて、「例えば〇〇といった関わり方」のように具体的にイメージし、説明できる。 ☐ ケアマネジメントの意義・目的、考え方を理解できている。 ☐ 介護予防・多職種連携の重要性を理解できている。 ☐ 居宅サービス計画と福祉用具貸与計画等の関係性について説明できる。 ☐ ICF の考え方を概ね理解できている。	
対象者の特性等について学ぶ	3. 高齢者と介護・医療に関する基礎知		
	3.1 からだとこころの理解	☐ 加齢に伴う心身機能の変化(フレイルなど)を説明できる。 ☐ 高齢者の特性や特定疾病の影響が、日常生活においてどのように支障を来しているのか理解できている。 ☐ 認知症の症状を説明できる。 ☐ 認知症の BPSD についてその原因や対応の例を概説できる。 ☐ 認知症の人に対する望ましい接し方や関わり方を概説できる。 ☐ 感染症について感染源や感染経路を概説できる。 ☐ 感染予防の標準予防策(スタンダードプリコーション)を概説できる。	
	3.2 リハビリテーション	☐ リハビリテーションの考え方をイメージでき、包括的且つ総合的な視点で人を捉えていることを理解できている。 ☐ リハビリテーションに関わる専門職を列挙でき、それぞれの役割を理解できている。 ☐ リハビリテーションと福祉用具との関連性を理解できている。	
	3.3 高齢者の日常生活の理解	☐ 生活の概念、基本構造を理解できている。 ☐ 日常生活の個別性に関連している要素を理解できている。 ☐ 基本的動作の種類について説明できる。 ☐ ADL、手段的 ADL について、その種類と内容を説明できる。 ☐ 自宅や地域での日常生活を通じた介護予防の視点を理解できている。	

	科目名	確認ポイント(理解できたら✓)	メモ
	3.4 介護技術	☐ 介護を要する利用者の状態像を理解できている。 ☐ ADL ごとの意義や目的を理解できている。 ☐ ADL に関連する介護技術を理解できている。 ☐ 目的に合わせた介護技術の提供に用いる福祉用具の役割を列挙できる。	
	3.5 住環境と住宅改修	☐ 日本家屋の特徴や高齢者の住まいについての課題を理解できている。 ☐ 生活場面ごとの整備のポイントを理解できている。 ☐ 介護保険制度での住宅改修を理解できている。 ☐ 住まいの課題を解決することで、自立支援や介護負担軽減につながっていることを理解できている。	
福祉用具専門相談員に必要な具体的な知識技術について学ぶ	4. 個別の福祉用具に関する知識・技術		
	4.1 福祉用具の特徴	☐ 福祉用具の機能及び構造における注意事項を説明できる。 《特殊寝台、特殊寝台付属品の例》 ☐ 特殊寝台の役割が理解できている。 ☐ 特殊寝台の導入で気を付けるべき視点(寝かせきりにしてしまうことなど)を理解できる。 ☐ モーターの数とベッドの機能の基本的理解と使用の特徴を理解できる。 ☐ 特殊寝台付属品の知識の目的、機能と使用の特徴を理解できる。	
	4.2 福祉用具の活用	☐ 福祉用具の選定・提案の視点を説明できる。 《特殊寝台、特殊寝台付属品の例》 ☐ 特殊寝台と大転子との関係を理解できている。 ☐ 背上時のポイント(膝上げから背上げ、背抜きなど)について理解できる。 ☐ 起き上がり動作の手順・留意事項を理解できる。 ☐ マットレスの硬さの違いと選定にあたっての留意事項を理解できる。 ☐ 身体拘束の視点(サイドレールやベッドの配置など)を理解できる。 ☐ 特殊寝台の事故事例(はさみ込みなど)を理解できる。	

科目名	確認ポイント(理解できたら✓)	メモ
4.3 福祉用具の安全利用とリスクマネジメント	☐ 事故情報の公表機関や収集方法を理解できている。 ☐ 事故発生時の対応や報告の進め方を理解できている。 ☐ 代表的な重大事故やその要因、ヒヤリハット事例を列挙できる。 ☐ 事故予防のためのモニタリングでのチェックポイントを把握できている。 ☐ 利用者への説明の際のコミュニケーションにおける注意点を把握できている。	
5. 福祉用具に係るサービスの仕組みと利用の支援に関する知識及び支援に関する総合演習		
5.1 福祉用具の供給とサービスの仕組み	☐ 福祉用具の供給やサービスの流れと各段階の内容を理解できている。 ☐ 貸与・販売種目の中でも一部例外的な扱いをするものを理解できている。 (自動排泄処理装置の種類による要介護の違い、貸与と販売を組み合わせて使用するものなど) ☐ 例外給付の対象となる3つの条件を説明できる。 ☐ 貸与・販売選択制の対象種目や判断プロセスを理解できている。 ☐ 貸与・販売選択制における貸与と販売それぞれのメリット・デメリットを説明できる。 ☐ 福祉用具の整備の意義とポイントについて説明できる。	
5.2 福祉用具による支援プロセスの理解・福祉用具貸与計画等の作成と活用	☐ 福祉用具による支援の手順をPDCAに沿って概説できる。 ☐ 福祉用具貸与計画等の記載項目の意味と内容を概説でき、記載ポイントを説明できる。 ☐ 利用者個々の状況に応じた利用目標の設定や選定について、重要性を理解できている。 ☐ 利用計画の留意点欄を福祉用具安全利用につなげる重要性と方法を理解できている。 ☐ モニタリングの意義となる目標達成状況確認と貸与継続の必要性の検討について理解できる。 ☐ 福祉用具貸与計画等、モニタリング記録の交付義務を理解できている。 ☐ 演習の事例を通じて、医療職からの情報収集や他の職種との協働と連携の必要性和重要性を理解できている。 ☐ 継続してスキルアップしていくことの必要性を、受講者自身の課題として理解できている。 ☐ 指定講習受講後も継続した研鑽により、受講者自身が目指すべき目標が設定できている。	

「福祉用具専門相談員指定講習カリキュラムの適切な実施に向けた調査研究事業」

検討体制

【検討委員会】

(敬称略・五十音順)

- 久留 善 武 一般社団法人シルバーサービス振興会 常務理事
小林 広 美 一般社団法人日本介護支援専門員協会 副会長
近藤 和 泉 国立研究開発法人国立長寿医療研究センター 病院長
神 智 淳 お茶の水ケアサービス学院株式会社 代表取締役
東 畠 弘 子 国際医療福祉大学大学院 福祉支援工学分野 教授
淵 上 敬 史 株式会社ウィズ 業務部 AS 課 課長
矢 沢 由 多加 公益財団法人テクノエイド協会 試験研修部長
◎ 渡 邊 慎 一 横浜市総合リハビリテーションセンター 副センター長
◎委員長

【作業部会】

(敬称略・五十音順)

- 神 智 淳 お茶の水ケアサービス学院株式会社 代表取締役
田 島 利 子 「在宅かいごと専門けあの相談室」Re-think 代表
○ 淵 上 敬 史 株式会社ウィズ 業務部 AS 課 課長
水 越 良 行 株式会社ヤマシタ ホームケア事業本部 営業統括部 東東京ブロック
○部会長

【オブザーバー】

(敬称略)

- 内 田 正 剛 厚生労働省老健局高齢者支援課 福祉用具・住宅改修指導官
松 本 洋 輔 厚生労働省老健局高齢者支援課 福祉用具・住宅改修係長
石 川 邦 大 厚生労働省老健局高齢者支援課 福祉用具・住宅改修係
岩 元 文 雄 一般社団法人全国福祉用具専門相談員協会 理事長
山 下 和 洋 一般社団法人全国福祉用具専門相談員協会 副理事長
中 川 敬 史 一般社団法人全国福祉用具専門相談員協会 副理事長

【事務局】

- 肥 後 一 也 一般社団法人全国福祉用具専門相談員協会
長 田 信 一 一般社団法人全国福祉用具専門相談員協会
川 口 隆 一般社団法人全国福祉用具専門相談員協会
中 沢 淳 一般社団法人全国福祉用具専門相談員協会
篠 原 昌 幸 一般社団法人全国福祉用具専門相談員協会
柳 田 磨 利 子 一般社団法人全国福祉用具専門相談員協会
江 口 誠 一般社団法人全国福祉用具専門相談員協会
谷 澤 由 香 理 エム・アール・アイリサーチアソシエーツ株式会社
柿 迫 栞 緒 エム・アール・アイリサーチアソシエーツ株式会社